

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4370500565		
法人名	医療法人すえひろ会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	熊本県水俣市塩浜2-19		
自己評価作成日	令和3年9月20日	評価結果市町村受理日	令和3年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和3年10月12日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム周辺は、季節の花々や隣には中学校があり自然豊かな環境です。当施設は、医療法人であり、敷地内には、泌尿クリニック(内科・整形)、介護医療院ふちがみがあります。特に医療体制は整っており、日中は泌尿クリニック・夜間は介護医療院の緊急時の応援体制がある為、働く側もご家族も安心です。運営理念である「家庭的な雰囲気の中でゆったりと楽しくいきいきと」を職員が実践し入居者の声に耳を傾けその人らしさを大切にしています。質の向上として、グループホーム内で毎月、担当を決め学習会の開催しています。担当制にすることで責任を持つ事でお互いの向上心に繋がっています。地域の相談窓口としても活動しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設当初からの入居者(開設して18年)や、100歳を最高齢として高齢化傾向にはあるが、入居者同士競い合っている読書やおしゃべりしながらの料理の下ごしらえ等機能維持に向け職員が寄り添いのケアを徹底している。コロナ禍に外出や地域住民との交流が出来ない等の制約はあるが、入居者の楽しみ事を引き出し、職員も一緒になって楽しめる環境にしたいと、創意工夫しながら入居者の今の楽しみを視野に全職員がベクトルを同じくしている。職員の意見をもとにした研修会や役割分担しながらも協力し合う等志向を高くし、医療法人の一角にあり、医療面での安心感やホームからの情報発信により、家族からの絶大な信頼を得たホームである。これまで培ってきた地域との良好な関係は長年DVDを持参して下さる住民の姿に表出しており、コロナ収束による住民との交流再開に大いに期待されるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	4. ほとんど掴んでいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度ある			<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度
		<input type="radio"/>	3. たまにある			<input type="radio"/>	3. たまに
		<input type="radio"/>	4. ほとんどない			<input type="radio"/>	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. あまり増えていない
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	1		<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中でゆったりと楽しくいきいきと」の運営理念のもと、ぬくもりのある、安心できる環境を提供出来るよう努めている。	開設して18年目のホームでは開設時からの理念を継続し、日々理念を目にすることで意識を持ち、毎月の会議の中での唱和による再確認や、理念を想起させながらの話し合い等全職員がベクトルを同じくしてケアに臨んでいる。法人が一体となって委員会活動等目標達成に真摯に取り組み、入居者個々の特徴や性格等を捉えたケアに理念が息づいていることが表出している。	地域密着型としての姿勢は理念に謳ってはいないが、地域の中での基盤は確立している。その中で、地域性を入れることを検討したいとの意向も聞かれた。これまで地域の中で培ってきた長年の取り組みを理念に組み入れることを良いと思われ、検討頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染拡大防止の為、地域のお祭りもなくなり、行事、ボランティアの受け入れなど、すべてにおいて中止している状況にある。	コロナ禍の中で地域住民との交流は難しい状況にはあるが、DVDの差し入れや野菜・果物等の持ち届け等これまで通り継続して支援助けださる等好意的な住民の姿にこれまでの関わりが表われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症相談の窓口としてサポートセンターを設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年の3月からコロナウイルス感染拡大防止の為、運営推進会議を開催出来ず、自治会長はじめ、市の担当職員、地域包括支援センター担当職員にも情報提供がないか確認し議事録にて報告している。	コロナ感染症対策として書面での開催として、各委員へ議事録を手渡し、自治会長や市担当者・地域包括支援センター等から情報を得ている。ホームから多くの情報が発信されていることが議事録に表われており、新型コロナウイルス感染症の収束によりこれまで通りの会議の再開が、ホームの現状発信や地域の情報リサーチ等として更にサービスに反映される事と期待できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員、地域包括支援センター担当職員と、なじみの関係にあり、困りごとやお尋ねも親身に対応して頂いている。	行政担当者や地域包括支援センターなど、何かあれば随時相談し、メールや電話により回答を得ており、気軽に相談出来る馴染みの関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3カ月に1回法人内で開催し、グループホームでは、毎月の運営会議の際に身体拘束状況や、今月の活動、定期的な研修を基に身体拘束をしない取り組みを行っている。	身体拘束廃止指針及び身体拘束ゼロ宣言を掲げ、同系列事業所3カ所による身体拘束廃止委員会の開催、ユーチューブの活用や職員個々が資料を熟読ことで再確認としている。また、毎年言葉のチェックリストによるアンケートを集計し全員で報告しあい共通認識とする他、車椅子も極力使用せず残存能力維持に努めている。帰宅願望に家族に協力を依頼しているケース等もあり、入居者個々の状況を把握し適切に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム独自の学習会で、高齢者虐待防止について職員全員で学んだ。高齢者虐待防止するにはどのような取り組みが必要か職員一人ひとりの考えを聞き、高齢者虐待防止について意識を高めることが出来た。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についても包括支援センター職員に分かりやすい資料をもとに学び、グループホーム独自の研修会でも取り入れ学ぶことが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、入所時に重要事項説明書、リスク説明書、料金、など丁寧に説明しご家族が納得された上で契約を結んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に活動の報告を写真にて報告し、連絡が必要な方にはその都度、電話報告を行っている。コロナ禍で面会も制限している為、要望のあるご家族は、ラインを使用しテレビ電話や、写真を送る事で喜ばれている。	入居者とは日々の関わりの中で要望等を聞き取りしている。家族には写真による活動報告の他、状況変化には随時連絡を行い、対面が必要な場合には玄関先で話し合いを行っている。タブレットによる遠方の家族との相互交流も行いながら、意見や要望等を収集している。写真の送付が家族の要望を引き出す等家族への情報発信が奏功し、窓越しの面会は会話にならないとして家族等との面会の緩和が決定しており、入居者の笑顔に繋がるであろうと大いに期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループホームの運営会議を行い、夜勤者以外は基本出席している。ホーム内の検討事項を皆で情報共有し意見をだしている。施設長も出席される為、その場で、解決することもある。	施設長参加による運営会議により、職員の意見や提案事項を話し合う他、この会議の日を活用し行事食として入居者と職員とが一緒に楽しむ日としている。会議では各委員会からの報告(医療安全管理体制委員会、感染対策等)や検討事項等を全員で話し合うとともに職員の意見をもとにした勉強会を開催している。役割分担とした中でも職員同士が一致協力し、職員の異動も少なく、風通しの良い働きやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体調や生活面での不安ごと等、いつでも相談できる環境であるよう努めている。勤務調整も職員が協力して安心して働けるホーム作りに努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部の研修がほとんどなく、グループホーム内で工夫し職員全員で担当を持ち毎月、研修会を実施している。皆が関わる事で学習意欲も高まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所をはじめ、水俣市の介護保険事業所など、相談や尋ねたり情報交換を行っている。最近では集まれない為、電話で対応することが多い。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、自宅に訪問させて頂き、本人、ご家族の要望を聞き、家庭に近い環境作りに努めている。安心した生活の提供が出来るようご家族とも何度も細かい打ち合わせをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所説明する際、必ずご家族の協力、支援が必要である事を話している。本人、ご家族の困りごとに耳を傾け、些細な事も相談出来る関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のニーズに柔軟に対応できるよう、必要なケアの支援内容を見極め、以前サービス利用していた介護支援専門員や事業所からも情報を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来る事、好きな事を継続できるように支援している。簡単な、調理、掃除、洗濯物たたみなど、職員も、共に生活する家族として信頼関係も築く事ができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の支援なしでは本人を支えていく事は出来ないと考え、病院受診もご家族に基本対応して頂いている。ご家族と一緒に本人を支えていく関係を継続していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ感染防止の為、外出も、病院以外はしていない為、会いたい人にも自由に会う事が出来ないのが現状である。ご家族に、絵ハガキや手紙を書いて送りご家族もよろこばれている。	家族との毎日の電話や、窓越しでも毎日訪問されるご家族、家族からの絵手紙や手紙、家族との受診等が家族が中心ではあるが馴染みの関係を継続している。コロナ禍の中にあっては馴染みの場所へ外出は制限があり、外食の代わりに弁当や「ゆうゆう春祭り」としてのバイキング料理等今できる最大限の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人、ひとり性格も身体の状態も違うため、入居者同士揉め事もあるが職員は入居者の声に傾聴し、必要に応じて席の配置を変えたり生活環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族でも、声をかけて頂く事もある。相談事などはいつでも対応することを退所される時にも伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望、意見を取り入れられるよう、意向に沿ってカンファレンス実施。ご家族にも必要に応じて協力を得ている。	入居者の「買って来て欲しい」等の希望に職員が代行したり、家族に代弁し持参して頂く事で繋がりが切れないようにしている。視覚に障害があっても歌ったり笑って過され、発語困難でも好きな話題には声を発せられる等職員が常に入居者の話に耳を傾け、共感する姿勢を持って関わっている。自分での買い物の希望には、移動販売の利用を検討されたこともあり、本人本位になるよう把握した事案は全員で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴をご家族より情報を収集し、本人が心地よい生活ができるよう環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしさが発揮出来るように、入居者一人ひとりの状況を把握することで、出来ることの継続支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、介護支援専門員が、本人ご家族に聞き取り実施。担当職員の意見、モニタリングの評価、生活の様子を踏まえ担当者会議を行っている。	本人・家族の意向ををもとにしたプランは、半年毎に見直し、部屋のテレビ設置についての方向性等些細なことでも職員とカンファレンスを行う等モニタリングを継続しながら援助方法を決めている。心身状態の変化に全員で検討し、個別援助計画を変更する等現状に即した詳細なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテには、毎日の生活の様子を記録し、病院受診や体調変化があった場合は、2号用紙に記載。職員間は申し送りノートを活用し情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に対して、出来る限り柔軟な対応が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中から、地域の行事や地域の中での活動報告をしているが、最近では、コロナ感染予防の為、外部との関わりを制限している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人、ご家族へかかりつけ医の確認を行っている。入居後は、同法人のクリニックかかりつけ医を変更される方が多い。ご家族の意向に添って医療の支援を行っている。	本人・家族に希望するかかりつけ医を支援しており、これまでの医療機関や同法人クリニックへの受診が行われている。他の医療機関への受診は、基本的に家族の対応としているが、必要があれば職員も同行している。今月から月2回の訪問診療をスタートさせ、主治医とは認知症を含めて、状態に応じた服薬の調整や、ホームでの対応が可能であるか検討する等適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人に淵上クリニックがあり、入居者の体調に変化があったり、些細な事でも報告し連絡を密に行っている。連絡ノートも活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要となった場合、医師・看護師へ治療方針を、ご家族と共に介護支援専門員、主任も同席させて頂き、情報を共有しながら退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族へ身体の重度化や終末期についてのご家族の思い、意向を聞き取りしている。法人が医療法人である為、連携を取りながら、できるだけグループホームの生活を維持出来るよう努めている。	入居時に重度化や終末期の支援について、ホームの方針を書面をもとに説明しながら家族の意向や思いを把握している。経口摂取が重要であることを職員は十分認識し、ホームに出来得るギリギリまでの支援に努めている。入居者の状態変化に応じて家族との話し合いを重ね、より良い方向性を見つける事に尽力し、隣接の医療医院への転院の他、特養へ申し込みをされている方もおられる。	看取りについては、勉強会も行っていきたいと意欲的である。開設当初からの入居者や、100歳を最高齢として高齢化傾向に有り、ホームで最期までの希望がある場合に備え看取りケアについて学ぶ機会を検討いただきたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応について、対応マニュアルを皆が目の届く所に掲示している。グループホーム内の研修にも定期的に組み込み、いざという時の対応が出来るよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を実施している。日中・夜間を想定し、入居者も一緒に訓練している。火災だけでなく、地震・水害の訓練を行い、ホーム内の研修で非常食の作り方など取り入れている。	今年度は9月に1回目の消防訓練(映写・DVDを活用)を実施し、2回目は夜間想定を予定している。また、バック料理の実習も年間研修の中に組み入れ、備蓄については定期的に見直しが行われている。居室内は避難誘導の面からも整頓を心掛け、入り口には防災頭巾が下げられている。	今後も火災に加え、自然災害についても継続した安全対策に努めていかれる事を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者に対し、不快な思いをさせないよう対応については常に心がけている。定期的に身体拘束廃止委員会で、言葉のチェックリストを活用し職員全員で意識を高めている。	ゆったりとした雰囲気の中で、入居者の笑い声が安心感を醸し出している。職員は入居者の楽しみ事を引き出し、共に過ごせる時間を大切にしている。職員の守秘義務、プライバシーへの配慮については研修会などにより徹底している。また、主任やケアマネジャは各ユニットの状況を共有し、ホーム全体の環境(人・物など)に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	最近では、コロナ感染防止の為、思うような活動、要望に応じることが出来ないのが現状である。ホーム内で出来ることの実践と共にご家族との繋がりは、電話やタブレットを使用している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、これまで生活していたように安心した生活が出来るようにその人らしさを大切に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類を選ぶことができる方に関しては、見守りながら必要に応じて会話しながら支援している。ご家族にも協力して頂き衣類の入れ替え等して頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の献立を元に毎日の食事を提供している。簡単な作業が出来る方は、出来る範囲で手伝っておられる。月に一度、バラエティーメニューを取り入れ、季節に応じた物や、食べたい物を取り入れている。	法人の献立を参考にしながら、地元の生鮮食品(肉・魚・野菜など)を活用し、職員による調理が継続されている。干し柿作りをはじめ入居者の出番は多く、訪問当日も新聞紙を広げたテーブルで、芋蔓の皮むきを手際よく取り組まれており、季節の一品として食卓に並んでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事、お茶の摂取以外にも10時・15時の水分補給にコーヒー・飲むヨーグルト・牛乳等提供している。水分補給が難しい方は、ゼリーやゼリー飲料を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のイソジン使用しうがいの徹底、食後は、義歯を外し洗浄。夜間は、洗浄剤を使用し清潔に保っている。必要に応じて歯科医の往診も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握をすることで、使用している尿取りバットの使い分けや、日中は、布パンツにするなど、出来る範囲で工夫している。	排泄チェックにより個々のパターンを共有し、布パンツやリハビリパンツの他、介護度を考慮したオムツなど個々に応じて支援している。排泄の誘導をはっきり依頼される方もおられ、自立に向け自宅に近いトイレ環境とし、プライバシーに十分配慮しながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが必要な方に関しては、随時、かかりつけ医に相談し内服の調整をしている。予防として、乳製品を提供したり、食前の体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は一日おきに入浴の実施をしている。随時、汚染や本人からの要望あればその都度対応している。	基本的に週3回の入浴とともに、汚染時はシャワーも取り入れながらその都度対応している。入居者の中には入浴が楽しみで毎日入られる方や、身体状況などからシャワーチェアを使用している。浴室、脱衣所も清潔に管理し、普段は入浴剤を使用しているが、冬至には柚子湯を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、日中は活動を適度に行い、夜間はゆっくり睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医受診の際、内服の処方もして頂き、内服の変更等は、職員皆で情報共有し、薬情を個人カルテに入れており、すぐに確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の嗜好品は継続できるよう、担当職員が買い物代行している。その人に合った役割(台拭き、洗濯、洗濯物たたみなど)を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり、外出・外泊が出来ない状況にある為、ご家族の面会も現在は窓越しが精一杯である。以前のように、外出に出掛けたり、自宅訪問が出来る環境になることが望ましいが、ご家族の協力も得ながら、今後の計画を立てて行く。	これまでのような外出が困難な状況であり、職員は入居者が気分的にも穏やかに過ごせるよう心を配っている。感染症収束後は外食や家族の協力を得た外泊なども実現できるようにしていきたいとしている。今月末には庭先での家族での面会も予定されており、外気に触れながら楽しい時間になることと思われる。	入居者の中には、財布を持って買い物に出かける日を心待ちにされておられるようである。今後も感染症の状況を見ながらの外出や、外出に代わる楽しみ事を継続頂きたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は、お小遣い程度をお預かりし、管理している。個人の出納帳にて記載し定期的にご家族に確認して頂く。買いたい物があれば、現在は、買い物代行や、ご家族に持って来ていただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	最近では、入居時に携帯電話を持って入居される方が増えている。自由に会話されたりしている。また、タブレット使用し、テレビ電話や写真等で交流出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は限られたスペースでゆっくりとくつろげる空間や、季節を感じられる壁面、植物を置いたり工夫している。居室に関しては、本人が過ごしやすいよう、入口にのれんや、目隠しシートなどを居心地の良い空間作りに努めている。	玄関入口には季節の果物や野菜、草花を飾り来訪者を迎えている。また、休憩できるような椅子を配置し、入居者がお茶を楽しんだり、外気浴のスペースに活用されている。リビングや廊下など切り絵やイベントの飾りを施し、ホーム内外が季節感のある空間である。明るいリビングでは日課である食材の下ごしらえ、本や日記を開く方など、入居者が思い思いに過ごされている。	日常のひとこまを写真として、掲示するとともに家族に配布されており、撮影日を記すことで更に家族もよりわかりやすいと思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中の生活スケジュールは基本、自由に生活されている。居間で他者とテレビを見たり、会話を楽しんだり思い思いに生活されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れたものや、着慣れた衣類等を持ってきて頂き、本人が不安なく生活できるようご家族のサポートも含め暮らしやすい環境を作り上げている。	本人のこれまでの生活環境等を把握し、入居後安心して過ごせるように努めている。また、必要な品をまとめたプリントの配布や、コロナ禍の為初日のみ居室内の状態を確認してもらっている。どの居室も窓にプランターを配置し、行き届いた掃除、担当職員による衣類の管理など居心地よく過ごせる空間となっている。	昼食後自室のベッドでテレビを見ながら寝てしまわれる方など、安心して過ごされる光景が見られた。今後も居心地良く過ごせる居室作りを継続していきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人のレベルに合わせ、出来ることの見極めを行い、出来る喜びを感じながら本人の力を出せるよう支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370500565		
法人名	医療法人すえひろ会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	熊本県水俣市塩浜町2-19		
自己評価作成日	令和3年9月20日	評価結果市町村受理日	令和3年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	2021/10/12

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム周辺は、季節の花々や隣には中学校があり自然豊かな環境です。当施設は、医療法人であり、敷地内には、泌尿クリニック(内科・整形)、介護医療院ふちがみがります。特に医療体制は整っており、日中は泌尿クリニック・夜間は介護医療院の緊急時の応援体制がある為、働く側もご家族も安心です。運営理念である「家庭的な雰囲気の中でゆったりと楽しくいきいきと」を職員が実践し入居者の声に耳を傾けその人らしさを大切にしています。質の向上として、グループホーム内で毎月、担当を決め学習会の開催をしている。担当制にすることで責任を持つ事でお互いの向上心に繋がっています。地域の相談窓口としても活動しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中でゆったりと楽しくいきいきと」の運営理念のもと、ぬくもりのある、安心できる環境を提供出来るよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染拡大防止の為、地域のお祭りもなくなり、行事、ボランティアの受け入れなど、すべてにおいて中止している状況にある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症相談の窓口としてサポートセンターを設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年の3月からコロナウイルス感染拡大防止の為、運営推進会議を開催出来ず、自治会長はじめ、市の担当職員、地域包括支援センター担当職員にも情報提供がないか確認し議事録にて報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員、地域包括支援センター担当職員と、なじみの関係にあり、困りごとやお尋ねも親身に対応して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に1回法人内で開催し、グループホームでは、毎月の運営会議の際に身体拘束状況や、今月の活動、定期的な研修を基に身体拘束をしない取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム独自の学習会で、高齢者虐待防止について職員全員で学んだ。高齢者虐待防止するにはどのような取り組みが必要か職員一人ひとりの考えを聞き、高齢者虐待防止について意識を高めることが出来た。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についても包括支援センター職員に分かりやすい資料をもとに学び、グループホーム独自の研修会でも取り入れ学ぶことが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、入所時に重要事項説明書、リスク説明書、料金、など丁寧に説明しご家族が納得された上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に活動の報告を写真にて報告し、連絡が必要な方にはその都度、電話報告行っている。コロナ禍で面会も制限している為、要望のあるご家族は、ラインを使用しテレビ電話や、写真を送る事で喜ばれている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループホームの運営会議を行い、夜勤者以外は基本出席している。ホーム内の検討事項を皆で情報共有し意見をだしている。施設長も出席される為、その場で、解決することもある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体調や生活面での不安ごと等、いつでも相談できる環境であるよう努めている。勤務調整も職員が協力して安心して働けるホーム作りに努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部の研修がほとんどなく、グループホーム内で工夫し職員全員で担当を持ち毎月、研修会を実施している。皆が関わる事で学習意欲も高まっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所をはじめ、水俣市の介護保険事業所など、相談や尋ねたり情報交換を行っている。最近では集まれない為、電話で対応することが多い。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、自宅に訪問させて頂き、本人、ご家族の要望を聞き、家庭に近い環境作りに努めている。安心した生活の提供が出来るようご家族とも何度も細かい打ち合わせをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所説明する際、必ずご家族の協力、支援が必要である事を話している。本人、ご家族の困りごとに耳を傾け、些細な事も相談出来る関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のニーズに柔軟に対応できるよう、必要なケアの支援内容を見極め、以前サービス利用していた介護支援専門員や事業所からも情報を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来る事、好きな事を継続できるように支援している。簡単な、調理、掃除、洗濯物たたみなど、職員も、共に生活する家族として信頼関係も築く事ができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の支援なしでは本人を支えていく事は出来ないと考え、病院受診もご家族に基本対応して頂いている。ご家族と一緒に本人を支えていく関係を継続していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ感染防止の為、外出も、病院以外はしていない為、会いたい人にも自由に会う事が出来ないのが現状である。ご家族に、絵ハガキや手紙を書いて送りご家族もよろこばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人、ひとり性格も身体の状態も違うため、入居者同士揉め事もあるが職員は入居者の声に傾聴し、必要に応じて席の配置を変えたり生活環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族でも、声をかけて頂く事もある。相談事などはいつでも対応することを退所される時にも伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望、意見を取り入れられるよう、意向に沿ってカンファレンス実施。ご家族にも必要に応じて協力を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴をご家族より情報を収集し、本人が心地よい生活ができるよう環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしさが発揮出来るように、入居者一人ひとりの状況を把握することで、出来ることの継続支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、介護支援専門員が、本人ご家族に聞き取り実施。担当職員の意見、モニタリングの評価、生活の様子を踏まえ担当者会議を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテには、毎日の生活の様子を記録し、病院受診や体調変化があった場合は、2号用紙に記載。職員間は申し送りノートを活用し情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に対して、出来る限り柔軟な対応が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中から、地域の行事や地域の中での活動報告をしているが、最近では、コロナ感染予防の為、外部との関わりを制限している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人、ご家族へかかりつけ医の確認を行っている。入居後は、同法人のクリニックかかりつけ医を変更される方が多い。ご家族の意向に添って医療の支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人に泌尿クリニックがあり、入居者の体調に変化があったり、些細な事でも報告し連絡を密に行っている。連絡ノートも活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要となった場合、医師・看護師へ治療方針を、ご家族と共に介護支援専門員、主任も同席させて頂き、情報を共有しながら退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族へ身体のリハビリや終末期についてのご家族の思い、意向を聞き取りしている。法人が医療法人である為、連携を取りながら、できるだけグループホームの生活を維持出来るよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応について、対応マニュアルを皆が目の届く所に掲示している。グループホーム内の研修にも定期的に組み込み、いざという時の対応が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を実施している。日中・夜間を想定し、入居者も一緒に訓練している。火災だけでなく、地震・水害の訓練を行い、ホーム内の研修で非常食の作り方など取り入れている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者に対し、不快な思いをさせないよう対応については常に心がけている。定期的に身体拘束廃止委員会で、言葉のチェックリストを活用し職員全員で意識を高めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	最近では、コロナ感染防止の為、思うような活動、要望に応じることが出来ていないのが現状である。ホーム内で出来ることの実践と共にご家族との繋がりは、電話やタブレットを使用している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、これまで生活していたように安心した生活が出来るようにその人らしさを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類を選ぶことが出来る方に関しては、見守りながら必要に応じて会話しながら支援している。ご家族にも協力して頂き衣類の入れ替え等して頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の献立を元に毎日の食事を提供している。簡単な作業が出来る方は、出来る範囲で手伝っておられる。月に一度、バラエティメニューを取り入れ、季節に応じた物や、食べたい物を取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事、お茶の摂取以外にも10時・15時の水分補給にコーヒー・飲むヨーグルト・牛乳等提供している。水分補給が難しい方は、ゼリーやゼリー飲料を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のイソジン使用しうがいの徹底、食後は、義歯を外し洗浄。夜間は、洗浄剤を使用し清潔に保っている。必要に応じて歯科医の往診も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握をすることで、使用している尿取りパットの使い分けや、日中は、布パンツにするなど、出来る範囲で工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが必要な方に関しては、随時、かかりつけ医に相談し内服の調整をしている。予防として、乳製品を提供したり、食前の体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は一日おきに入浴の実施をしている。随時、汚染や本人からの要望あればその都度対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、日中は活動を適度に行い、夜間はゆっくり睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医受診の際、内服の処方もして頂き、内服の変更等は、職員皆で情報共有し、薬情を個人カルテに入れており、すぐに確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の嗜好品は継続できるよう、担当職員が買い物代行している。その人に合った役割(台拭き、洗濯、洗濯物たたみなど)を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり、外出・外泊が出来ない状況にある為、ご家族の面会も現在は窓越しが精一杯である。以前のように、外出に出掛けたり、自宅訪問が出来る環境になることが望ましいが、ご家族の協力も得ながら、今後の計画を立てて行く。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は、お小遣い程度をお預かりし、管理している。個人の出納帳にて記載し定期的にご家族に確認して頂く。買いたい物があれば、現在は、買い物代行や、ご家族に持って来ていただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	最近では、入居時に携帯電話を持って入居される方が増えている。自由に会話されたりしている。また、タブレット使用し、テレビ電話や写真等で交流出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は限られたスペースでゆっくりとくつろげる空間や、季節を感じられる壁面、植物を置いたり工夫している。居室に関しては、本人が過ごしやすいよう、入口にのれんや、目隠しシートなどを居心地の良い空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中の生活スケジュールは基本、自由に生活されている。居間で他者とテレビを見たり、会話を楽しんだり思い思いに生活されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れたものや、着慣れた衣類等を持ってきて頂き、本人が不安なく生活できるようご家族のサポートも含め暮らしやすい環境を作り上げている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人のレベルに合わせ、出来ることの見極めを行い、出来る喜びを感じながら本人の力を出せるよう支援している。		